

得点化した中学生の「子どものウェルビーイング」の次元を明らかにするために、35項目全てを用いてバリマックス回転による主成分分析を行ったところ、固有値 1.0 以上の基準で10因子が抽出された。なお、因子分析の結果は表2-3に示した。この10因子全体の累積寄与率は、80.94%であった。これら10因子を累積寄与率50%以上となる4因子でまとめる事も考えたが、本研究においては、中学生の「子どものウェルビーイング」を複合的な側面から捉えることを目的とし、また先行研究において妥当性や信頼性が実証されている尺度を使用していることも踏まえ、10因子全体を用いる事とした。したがって、この35項目に関しては、リッカート法を用いて35点から140点と点数化し、得点が高いほどウェルビーイングな状態にあることを表す「子どものウェルビーイング」加算尺度とした。

表2-3 「子どものウェルビーイング」因子分析結果

成分	説明された分散の合計			抽出後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	6.074	17.354	17.354	6.074	17.354	17.354
2	4.787	13.676	31.031	4.787	13.676	31.031
3	4.160	11.884	42.915	4.160	11.884	42.915
4	2.947	8.419	51.334	2.947	8.419	51.334
5	2.264	6.468	57.802	2.264	6.468	57.802
6	1.994	5.698	63.500	1.994	5.698	63.500
7	1.852	5.291	68.791	1.852	5.291	68.791
8	1.516	4.332	73.123	1.516	4.332	73.123
9	1.425	4.071	77.194	1.425	4.071	77.194
10	1.312	3.748	80.942	1.312	3.748	80.942
11	.975	2.785	83.727			
12	.933	2.666	86.393			
13	.776	2.218	88.611			
14	.686	1.961	90.572			
15	.616	1.761	92.333			
16	.479	1.370	93.703			
17	.401	1.146	94.849			
18	.342	.976	95.825			
19	.294	.841	96.666			
20	.240	.686	97.352			
21	.187	.535	97.887			
22	.159	.456	98.343			
23	.135	.385	98.728			
24	.126	.361	99.089			
25	.092	.262	99.351			
26	.069	.198	99.549			
27	.055	.156	99.704			
28	.054	.153	99.858			
29	.031	9.E-02	99.945			
30	.011	3.E-02	99.978			
31	.006	2.E-02	99.994			
32	.002	6.E-03	100.000			
33	.000	8.E-16	100.000			
34	.000	2.E-17	100.000			
35	.00	.000	100.000			

因子抽出法: 主成分分析

表2-3「子どものウェルビーイング」因子分析結果続き

成分行列

	成分									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
18.ふだんの生活の中で気持ちがおちついたり、しあわせだと感じてい	.778	.087	-.029	-.017	-.224	-.199	-.032	-.148	-.213	-.119
40.いらいらすることがある	.605	-.216	.072	.269	.077	.159	.052	-.152	.347	.168
20.自分のことを大切だと思っている	.585	-.035	.280	-.294	-.368	-.179	-.182	-.379	-.132	.198
39.家にいて心がホッと休まる	.580	-.298	-.099	-.356	-.139	-.256	.249	.088	-.056	-.118
12.自分にはやりたいことがはっきりしている	.561	.497	-.076	.245	-.159	.097	-.145	.417	.134	.044
38.自分の時間を持っている	.552	-.342	-.193	-.371	-.208	.144	.281	.193	-.156	-.305
16.少しぐらいがんばっても、どうなるものでもないと思う	.550	-.260	.185	9.E-02	.162	.094	.162	-.470	-.079	.103
27.先生を信頼できる	.540	.046	.071	-.214	.536	-.370	-.242	.104	.067	.100
5.朝起きて学校に行きたくないことが多い	.523	-.136	.452	.190	.153	-.250	.229	-.119	-.228	.015
1.いろいろな事がめんどくさくなるが多い	.505	-.289	.312	-.143	-.142	.247	.277	.276	.217	.354
17.毎日楽しくすごしている	.485	.380	-.183	.163	-.396	-.346	.123	.063	-.122	.082
28.本音で話し合える先生がいる	.484	.098	-.073	-.314	.308	-.282	-.278	.267	.030	-.238
15.将来の職業について真剣に考えている	.447	-.041	.064	-.056	.421	.150	-.353	-.281	-.353	-.268
14.今は目標を持ち、それに向かってがんばっている	.325	.633	-.157	2.E-02	-.017	.055	-.368	.225	.254	-.133
22.自分自身に満足している	.111	.633	.518	8.E-02	-.080	.192	-.232	-.114	-.015	.177
10.おとなになったとき、どんな生活をしたいか決めている	.304	.592	.153	-.344	.183	.428	-.003	-.017	-.008	-.036
29.学級委員や学校の実行委員などの仕事を好んですることができる	.167	.590	-.015	.167	.212	.089	.443	-.179	.114	-.228
11.自分の夢がかなうとは思えない	.394	.587	-.093	-.104	-.051	-.047	.255	.049	.148	-.001
26.学校を楽しんでいる	.110	.553	-.223	2.E-02	-.385	-.451	.110	.049	-.324	-.012
3.すぐあくびがでる	.195	-.541	.322	8.E-02	.074	.147	-.271	.509	-.244	.013
4.すぐ体がだるくなってしまう	.269	-.490	.402	.346	.240	.114	.238	.302	-.267	.071
7.自分の健康状態に満足している	.109	.480	.185	-.079	.381	.167	.391	.025	-.350	.254
35.自分の気持ちをよくわかってくれる友達がいる	.546	-.099	-.678	.131	-.001	.223	-.100	-.016	-.194	.040
33.悩みを話せる友達がいる	.461	-.180	-.648	.285	.279	.278	-.081	-.046	.012	.108
23.授業になかなか集中できない	.338	-.080	.643	.278	.012	.059	-.015	.167	.012	-.254
34.友達からたよりにされていると感じる	.447	-.135	-.633	.173	-.150	.366	-.121	-.106	-.043	.160
31.自分が困ったときに、相談できる人がいる	.082	.175	-.632	.556	.183	-.135	-.036	.143	-.128	.243
2.つかれて授業中ボーッとしてしまうことが多い	.269	-.308	.622	.151	-.209	-.047	-.021	-.005	.221	-.103
13.いくら努力してもだめなことが多い	-.02	.259	.349	.685	.216	-.355	.020	-.070	.110	.239
24.学校の授業についていけない	.310	.342	.282	.654	-.121	.030	-.084	.009	.085	-.367
25.宿題を忘れてしまうことが多い	.209	-.434	-.197	.404	-.508	.174	.187	-.053	.159	-.142
32.友達と一緒にいるとくたびれる	.351	-.439	-.173	-.201	.113	-.492	-.075	.055	.306	.546
6.夜、よく眠ることができる	.258	.398	-.032	-.427	.190	.156	.464	.136	.249	.048
21.自分に自信がある	.377	.169	.376	-.328	-.303	.269	-.420	-.155	.094	.224
8.運命で決まっているので、自分ではどうすることもできないと思う	.328	-.307	-.268	2.E-02	.342	-.176	.042	-.256	.419	-.332

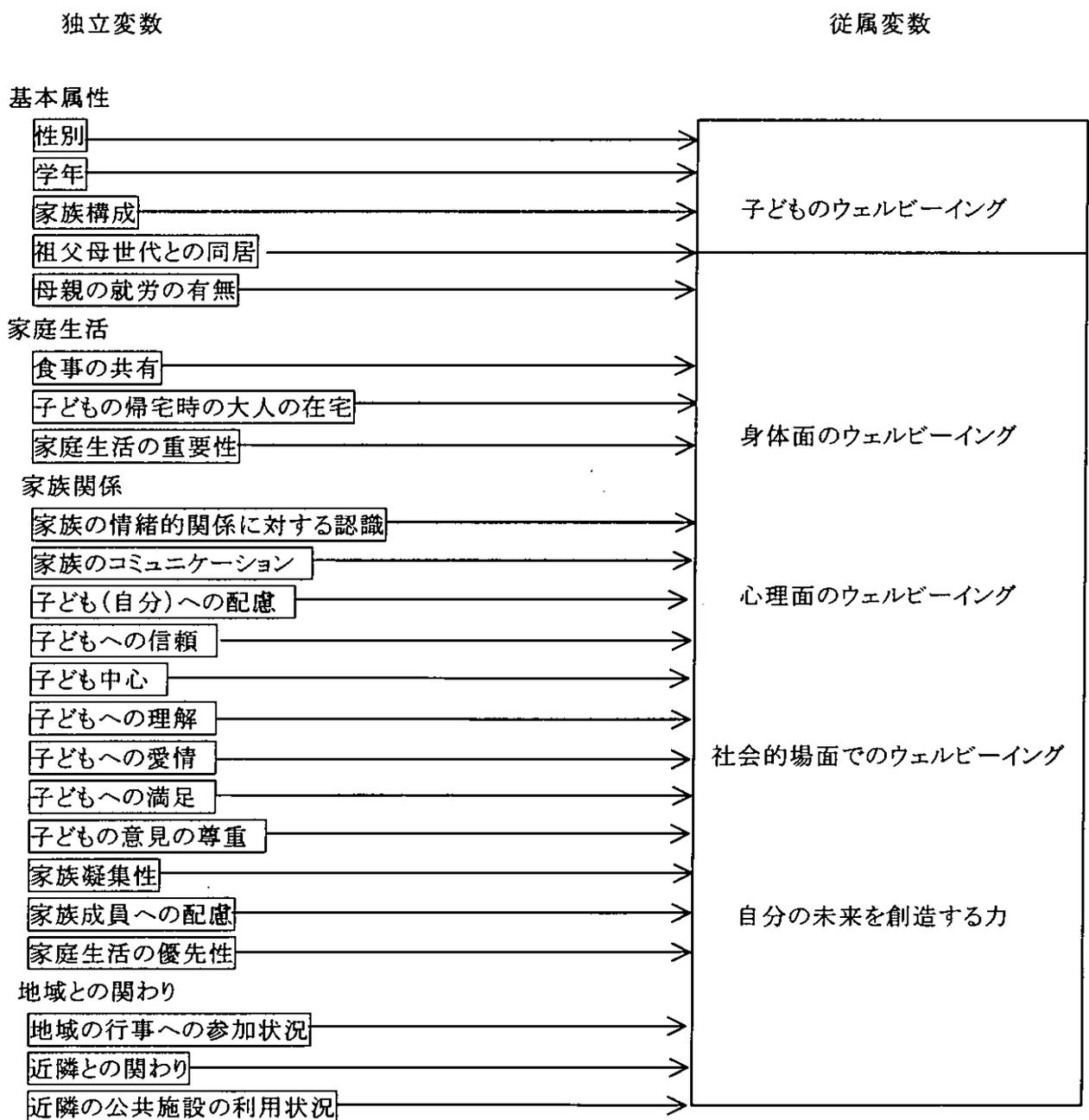
因子抽出法: 主成分分析

1. 10個の成分が抽出されました

2. 「子どものウェルビーイング」を規定する諸要因

「子どものウェルビーイング」を規定する諸要因を把握するために、属性要因、独立変数群と「子どものウェルビーイング」の関連について明らかにすることを目的とした。そこで以下のような分析枠組みに則して、分析を行なった（図2-1）。

図2-1 「子どものウェルビーイング」を規定する要因に関する分析枠組み



(1) 性別との関連

調査対象となった40ケースの男女別は、男子24名、女16名であった。男24名の「子どものウェルビーイング」得点は、92.11点であり、女16名の「子どものウェルビーイング」得点は82.07点であった(表2-4)。

表2-4 性別の「子どものウェルビーイング」得点

性別×「子どものウェルビーイング」

	性別	N	平均値	標準偏差	平均値の標準 誤差
「子どものウェルビーイング」	男	24	92.111	9.100	2.145
	女	16	82.067	11.738	3.031

この男女の「子どものウェルビーイング」得点の差が統計的に有意な差であるかを調べるため、性別を独立変数としたT検定を行なった。その結果、有意確率5%水準でこの差が統計的に有意な差であることが分かった(表2-5)。すなわち、里親に委託されている「子どものウェルビーイング」には性別による差が生じることが統計的に認められた。

表2-5 性別と「子どものウェルビーイング」との関連

性別×「子どものウェルビーイング」

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定		
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率(両側)
「子どものウェルビーイング」					
等分散を仮定する。	1.758	.195	2.769	31	.009
等分散を仮定しない			2.705	26.137	.012

(2) 家族生活と「子どものウェルビーイング」

家族生活の充実度を尋ねる項目として、普段の夕食の共有状況、子ども(調査対象者)の帰宅時の大人の在宅状況、家庭生活の重要性、家族の凝集性、家族

成員への配慮、家庭生活の優先性を設定した。ここでは、現実の家族生活を子どもたちがどのように感じ、認識するかを尊重した質問文を設定している。

a 普段の食事の共有状況

：一日一度は、家族が食事をともにする

調査対象者のうち、一日一度は家族と食事をともにすると答えた子どもたちは、全体の60%であった（表2-6）。

表2-6 普段の食事の共有状況

		度数	パーセント
有効	全然あてはまらない	9	25.7
	あまりあてはまらない	5	14.3
	まあまああてはまる	13	37.1
	たいへんよくあてはまる	8	22.9
	合計	35	100.0

食事の共有状況の違いによる、「子どものウェルビーイング」得点の平均値の差は、以下の表2-6の通りである。食事の共有が全くないと答えている中学生の「ウェルビーイング」得点よりも、少しでもあると答えている中学生の「ウェルビーイング」得点の方が高くなっている。しかし、平均値の差だけでは、食事の共有状況の頻度が多いほど、「子どものウェルビーイング」得点が高まるという、結果ではない。

表2-6 食事の共有状況別「子どものウェルビーイング」得点

「子どものウェルビーイング」

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	8	80.250	10.820	3.825	58.0	91.0
あまりあてはまらない	4	90.500	13.772	6.886	71.0	102.0
まあまああてはまる	13	92.077	8.921	2.474	73.0	102.0
たいへんよくあてはまる	8	86.000	12.375	4.375	69.0	107.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

そこで、食事の共有状況と「子どものウェルビーイング」の統計的な関連を明らかにするため、食事の共有状況を独立変数とした一元配置分散分析をおこなった（表2-7）。その結果、食事の共有状況の「子どものウェルビーイング」への統計的な関連性は、認められなかった。

表2-7 食事の共有状況の「子どものウェルビーイング」への影響

分散分析.

「子どものウェルビーイング」					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	746.759	3	248.920	2.114	.120
グループ内	3415.423	29	117.773		
合計	4162.182	32			

b子ども(調査対象者)の帰宅時の大人の在宅状況:あなたが帰宅したとき家族の中の誰か
大人が家にいて、おかえりと言ってくれる

調査対象者のうち、「帰宅したとき家族の中の誰か大人が家にいて、おかえりと言ってくれる」と答えた子どもたちは、全体の85.7%であった(表2-8)。

表2-8 子どもの帰宅時の大人の在宅状況

あなたが帰宅したとき、家族の中に誰か大人がいる			
		度数	パーセント
有効	いつも誰かがいる	18	51.4
	たまに誰かがいる	12	34.3
	ほとんど誰もいない	4	11.4
合計		35	100.0

帰宅時の大人の在宅状況の違いによる、「子どものウェルビーイング」得点の平均値の差は、以下の表2-9の通りである。帰宅時の大人の在宅が全くないと答えている中学生の「ウェルビーイング」得点よりも、少しでもあると答

えている中学生の「ウェルビーイング」得点の方が高くなっている。平均点を比較すると、帰宅時の大人の在宅状況が多いほど、「子どものウェルビーイング」得点が高まるという、結果である。

表 2-9 帰宅時の大人の在宅状況別「子どものウェルビーイング」得点

「子どものウェルビーイング」						
	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
いつも誰かがいる	18	88.167	12.123	2.857	58.0	107.0
たまに誰かいる	11	86.909	10.530	3.175	70.0	102.0
ほとんど誰もいない	3	85.000	16.000	9.238	69.0	101.0
合計	32	87.438	11.570	2.045	58.0	107.0

そこで、帰宅時の大人の在宅状況と「子どものウェルビーイング」の統計的な関連を明らかにするため、帰宅時の大人の在宅状況を独立変数とした一元配置分散分析をおこなった（表 2-10）。その結果、帰宅時の大人の在宅状況の「子どものウェルビーイング」への統計的な関連性は、認められなかった。

表 2-10 帰宅時の大人の在宅状況の「子どものウェルビーイング」への影響

分散分析.

「子どものウェルビーイング」					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	30.466	2	15.233	.107	.899
グループ内	4119.409	29	142.049		
合計	4149.875	31			

c 家族の凝集性

①親子の結びつきは強い

本調査対象者のうち、親子の結びつきがとても強いと感じている子どもたちは 11.8%であった。また、まあまあ強いと感じている子どもが 50.0%、あまり強くないと感じている子どもが、29.4%、全く強くないと感じている子どもたちが 8.8%であった（表 2-11）。

表 2 - 1 1 親子の結びつきが強い

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	3	8.8
	あまりあてはまらない	10	29.4
	まあまああてはまる	17	50.0
	たいへんよくあてはまる	4	11.8
	合計	34	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、親子の結びつきがより強いと感じている群ほど、「子どものウェルビーイング」得点が高かった（表 2 - 1 2）。

表 2 - 1 2 親子の結びつきが強いこと別「子どものウェルビーイング」得点

「子どものウェルビーイング」

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	3	74.333	16.503	9.528	58.0	91.0
あまりあてはまらない	9	88.556	11.588	3.863	69.0	102.0
まあまああてはまる	16	89.188	7.816	1.954	70.0	101.0
たいへんよくあてはまる	4	92.750	14.930	7.465	73.0	107.0
合計	32	88.063	11.187	1.978	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表 2 - 1 3）。

表 2 - 1 3 親子の結びつきが強いこと×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析

分散分析.

「子どものウェルビーイング」

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	675.799	3	225.266	1.969	.142
グループ内	3204.076	28	114.431		
合計	3879.875	31			

② 私の家族はとても仲がいい

本調査対象者のうち、私の家族はとても仲がいいと感じている子どもたちは22.9%であった。また、まあまあよいと感じている子どもが42.9%、あまりよくないと感じている子どもが、25.7%、全くよくないと感じている子どもたちが8.6%であった（表2-14）。

表2-14 私の家族はとても仲がいい

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	3	8.6
	あまりあてはまらない	9	25.7
	まあまああてはまる	15	42.9
	たいへんよくあてはまる	8	22.9
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、私の家族はとても仲がいいと感じている群ほど、「子どものウェルビーイング」得点が高かった（表2-15）。

表2-15 私の家族はとても仲がいい別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

「子どものウェルビーイング」

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	3	74.333	16.503	9.528	58.0	91.0
あまりあてはまらない	8	83.125	11.077	3.916	69.0	102.0
まあまああてはまる	14	91.286	8.730	2.333	70.0	102.0
たいへんよくあてはまる	8	90.375	10.875	3.845	73.0	107.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表2-16）。

表 2-16 私の家族はとても仲がいい×「子どものウェルビーイング」

の一元配置分散分析

分散分析.

「子どものウェルビーイング」					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	939.908	3	313.303	2.820	.056
グループ内	3222.274	29	111.113		
合計	4162.182	32			

③私の家族では、家族がそろい、いっしょに集まることをとても大切にしている
 本調査対象者のうち、私の家族では、家族がそろい、いっしょに集まることをとても大切にしていると感じている子どもたちは8.6%であった。また、少ししていると感じている子どもが37.1%、あまりしていないと感じている子どもが、40.0%、全くしていないと感じている子どもたちが14.3%であった(表12-17)。

表2-17 家族がそろい、いっしょに集まることをとても大切にしている

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	5	14.3
	あまりあてはまらない	14	40.0
	まあまああてはまる	13	37.1
	たいへんよくあてはまる	3	8.6
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は表12-18のとおりである。

表 2-18 家族がそろい、いっしょに集まることをとても大切にしている
 別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

「子どものウェルビーイング」						
	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	4	81.250	19.311	9.656	58.0	102.0
あまりあてはまらない	13	88.615	9.386	2.603	71.0	102.0
まあまああてはまる	13	86.769	11.505	3.191	69.0	107.0
たいへんよくあてはまる	3	94.667	5.686	3.283	90.0	101.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表2-19）。

表2-19 家族がそろいいっしょに集まることをとても大切にしている×
「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析
分散分析.

「子どものウェルビーイング」					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	66.291	2	33.145	.235	.792
グループ内	4089.678	29	141.023		
合計	4155.969	31			

④ 父と母は仲が良い

本調査対象者のうち、父と母は仲がよいととても感じている子どもたちは29.4%であった。またまあまあよいと感じている子どもが55.9%、あまりよくないと感じている子どもが14.7%であり、全くよくないと感じている子どもたちはいなかった（表2-20）。

表2-20 父と母は仲が良い

		度数	有効パーセント
有効	あまりあてはまらない	5	14.7
	まあまああてはまる	19	55.9
	たいへんよくあてはまる	10	29.4
	合計	34	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は表2-21のとおりである。

表2-21 父と母は仲が良い別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

「子どものウェルビーイング」						
	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
あまりあてはまらない	4	87.500	12.477	6.238	71.0	101.0
まあまああてはまる	18	88.611	11.981	2.824	58.0	107.0
たいへんよくあてはまる	10	85.400	11.462	3.625	69.0	101.0
合計	32	87.469	11.579	2.047	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表2-22）。

表2-22 父と母は仲が良い×「子どものウェルビーイング」
の一元配置分散分析
分散分析.

「子どものウェルビーイング」					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	66.291	2	33.145	.235	.792
グループ内	4089.678	29	141.023		
合計	4155.969	31			

d 家族成員への配慮・家庭生活の優先性・家庭生活の重要性

① 家族が危機的状態にあるとき、自分は努力を惜しまない

本調査対象者のうち、家族が危機的状態にあるとき、自分は努力を惜しまないと感じていた子どもたちは22.9%であった。また、まあまあ感じていた子どもが48.6%、あまり感じていない子どもが、22.9%、全く感じていない子どもたちが5.7%であった（表2-23）。

表2-23 家族が危機的状態にあるとき、自分は努力を惜しまない

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	2	5.7
	あまりあてはまらない	8	22.9
	まあまああてはまる	17	48.6
	たいへんよくあてはまる	8	22.9
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、家族が危機的状態にあるとき、自分は努力を惜しまないと感じている群ほど、「子どものウェルビーイング」得点が高かった（表2-24）。

表 2-24 家族が危機的状態にあるとき、自分は努力を惜しまない
別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

「子どものウェルビーイング」

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	2	74.500	23.335	16.500	58.0	91.0
あまりあてはまらない	7	86.429	13.563	5.126	69.0	102.0
まあまああてはまる	17	88.647	9.069	2.200	70.0	102.0
たいへんよくあてはまる	7	89.714	11.514	4.352	74.0	107.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった(表 2-25)。

表 2-25 家族が危機的状態にあるとき、自分は努力を惜しまない
×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析

分散分析.

「子どものウェルビーイング」

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	402.657	3	134.219	1.035	.392
グループ内	3759.525	29	129.639		
合計	4162.182	32			

② 家族がうまくいくために、自分の気持ちを押しさえる

本調査対象者のうち、家族がうまくいくために、自分の気持ちを押しさえることにとってもあてはまると回答した子どもたちは14.3%であった。また、少しあてはまると回答とした子どもが54.3%、あまりあてはまらないと回答した子どもが20.0%、全くあてはまらなると回答した子どもたちが11.4%であった(表 2-26)。

表 2-26 家族がうまくいくために、自分の気持ちを押しさえる

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	4	11.4
	あまりあてはまらない	7	20.0
	まあまああてはまる	19	54.3
	たいへんよくあてはまる	5	14.3
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、表2-27の通りである。

表 2-27 家族がうまくいくために、自分の気持ちを押しさえる

別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

「子どものウェルビーイング」

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	4	73.000	13.736	6.868	58.0	91.0
あまりあてはまらない	6	85.667	9.791	3.997	70.0	96.0
まあまああてはまる	19	91.000	10.387	2.383	71.0	107.0
たいへんよくあてはまる	4	88.500	5.066	2.533	84.0	95.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることが認められた（表2-28）。

表 2-28 家族がうまくいくために、自分の気持ちを押しさえる

×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析

分散分析.

「子どものウェルビーイング」

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	1097.848	3	365.949	3.463	.029
グループ内	3064.333	29	105.667		
合計	4162.182	32			

③ 家族が仲良く力を合わせることは、大切なことである

本調査対象者のうち、家族が仲良く力を合わせることは、大切なことであると感じている子どもたちは40.0%であった。また、まあまあよいと感じている子どもが42.9%、あまりよくないと感じている子どもが、11.4%、全くよくないと感じている子どもたちが5.7%であった(表2-29)。

表2-29 家族が仲良く力を合わせることは、大切なことである

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	2	5.7
	あまりあてはまらない	4	11.4
	まあまああてはまる	15	42.9
	たいへんよくあてはまる	14	40.0
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、家族が仲良く力を合わせることは、大切なことであると感じている群ほど、「子どものウェルビーイング」得点が高かった(表2-30)。

表2-30 家族が仲良く力を合わせることは、大切なことである
別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

「子どものウェルビーイング」

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	2	74.500	23.335	16.500	58.0	91.0
あまりあてはまらない	4	86.000	12.517	6.258	69.0	98.0
まあまああてはまる	14	88.071	10.637	2.843	70.0	102.0
たいへんよくあてはまる	13	89.462	10.309	2.859	73.0	107.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった(表2-31)。

表 2-31 家族が仲良く力を合わせることは、大切なことである

×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析

分散分析.

「子どものウェルビーイング」					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	401.522	3	133.841	1.032	.393
グループ内	3760.659	29	129.678		
合計	4162.182	32			

④ 自分のやりたい事は父母の反対を押し切ってでもする

本調査対象者のうち、自分のやりたい事は父母の反対を押し切ってでもするにとてもよくあてはまると回答している子どもたちは5.7%であった。また、まあまああてはまると回答している子どもが40.0%、あまりあてはまらないと回答している子どもが34.3%、全くあてはまらないと回答している子どもたちが20.0%であった(表2-32)。

表 2-32 自分のやりたい事は父母の反対を押し切ってでもする

	度数	有効パーセント
有 効		
全然あてはまらない	7	20.0
あまりあてはまらない	12	34.3
まあまああてはまる	14	40.0
たいへんよくあてはまる	2	5.7
合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、表2-33の通りである。

表 2-33 自分のやりたい事は父母の反対を押し切ってでもする

別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

WELL

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	6	77.833	13.106	5.350	58.0	91.0
あまりあてはまらない	12	95.417	7.810	2.254	79.0	107.0
まあまああてはまる	13	85.308	9.835	2.728	70.0	101.0
たいへんよくあてはまる	2	84.000	8.485	6.000	78.0	90.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表2-34）。

表2-34 自分のやりたい事は父母の反対を押し切ってでもする
×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析
分散分析.

WELL					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	293.870	3	97.957	.734	.540
グループ内	3868.312	29	133.390		
合計	4162.182	32			

⑤ 家庭内では自分のペースで生活している

本調査対象者のうち、家庭内では自分のペースで生活しているにととてもよくあてはまると回答している子どもたちは2.9%であった。また、まあまああてはまると回答している子どもが17.1%、あまりあてはまらないと回答している子どもが48.6%、全くあてはまないと回答している子どもたちが31.4%であった(表2-35)。

表2-35 家庭内では自分のペースで生活している

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	11	31.4
	あまりあてはまらない	17	48.6
	まあまああてはまる	6	17.1
	たいへんよくあてはまる	1	2.9
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、表2-36の通りである。

表 2-36 家庭内では自分のペースで生活している

別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

WELL						
	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	11	83.364	14.009	4.224	58.0	107.0
あまりあてはまらない	15	89.933	11.542	2.980	70.0	102.0
まあまああてはまる	6	88.833	2.858	1.167	84.0	92.0
たいへんよくあてはまる	1	90.000	.	.	90.0	90.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表 2-37）。

表 2-37 家庭内では自分のペースで生活している

×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析

分散分析.

WELL					
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	293.870	3	97.957	.734	.540
グループ内	3868.312	29	133.390		
合計	4162.182	32			

⑥ 親子の間でお互いに歩み寄れないほどの意見の対立もある

本調査対象者のうち、親子の間でお互いに歩み寄れないほどの意見の対立もあるにとってもよくあてはまると回答している子どもたちは11.4%であった。また、まあまああてはまると回答している子どもが40.0%、あまりあてはまらなると回答している子どもが25.7%、全くあてはまらなると回答している子どもたちが22.9%であった（表3-38）。

表 2-38 親子の間でお互いに歩み寄れないほどの意見の対立もある

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	8	22.9
	あまりあてはまらない	9	25.7
	まあまああてはまる	14	40.0
	たいへんよくあてはまる	4	11.4
	合計	35	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、表2-39の通りである。

表2-39 親子の間でお互いに歩み寄れないほどの意見の対立もある
別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

WELL

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	8	81.000	13.877	4.906	58.0	101.0
あまりあてはまらない	8	93.875	6.081	2.150	84.0	102.0
まあまああてはまる	13	86.846	10.885	3.019	70.0	102.0
たいへんよくあてはまる	4	90.250	12.038	6.019	79.0	107.0
合計	33	87.545	11.405	1.985	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることは認められなかった（表2-40）。

表2-40 親子の間でお互いに歩み寄れないほどの意見の対立もある
×「子どものウェルビーイング」の一元配置分散分析

分散分析.

WELL

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	698.865	3	232.955	1.951	.144
グループ内	3463.317	29	119.425		
合計	4162.182	32			

⑦ 親への頼みはたいがい認められる

本調査対象者のうち、親への頼みはたいがい認められるにとてもよくあてはまると回答している子どもたちは5.9%であった。また、まあまああてはまると回答している子どもが38.2%、あまりあてはまらないと回答している子どもが55.9%、全くあてはまないと回答している子どもたちはいなかった(表2-41)。

表2-41 親への頼みはたいがい認められる

		度数	有効パーセント
有効	全然あてはまらない	2	5.9
	あまりあてはまらない	19	55.9
	まあまああてはまる	13	38.2
	合計	34	100.0

それぞれの群における「子どものウェルビーイング」平均点は、親への頼みはたいがい認められるにとてもあてはまると回答している群ほど、「子どものウェルビーイング」得点が高かった(表2-42)。

表2-42 親への頼みはたいがい認められる
別「子どものウェルビーイング」得点

記述統計量

WELL						
	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
全然あてはまらない	2	66.000	11.314	8.000	58.0	74.0
あまりあてはまらない	18	88.278	9.442	2.226	71.0	101.0
まあまああてはまる	12	91.583	9.728	2.808	70.0	107.0
合計	32	88.125	11.083	1.959	58.0	107.0

この群の間の「子どものウェルビーイング」得点の差が、統計的に有意な差であるかを調べるために、一元配置分散分析を行なった。その結果、統計的に有意な差であることが認められた(表2-43)。